

1 1 ペレット堆肥を使ったコンニャク栽培

情報提供：中部農業事務所

澁川地区農業指導センター

活動のねらい及び背景

澁川市赤城町敷島1区特産部では、平成18年からコンニャクに化成肥料の代替えとして、ペレット堆肥による試験に取り組んでいます。このペレット堆肥は管内の養豚農家等から搬出された糞尿等を横野堆肥センターで堆肥化しているもので、平成18年よりペレット堆肥を生産・販売しています。

普及活動の経過

4月15日、敷島1区特産部の共同ほ場において、土壌消毒前にペレット堆肥(275kg/10a)を散布し、5月22日にコンニャクの植え付けを行いました。通常の化成肥料を対照とし、ペレット堆肥によるコンニャクの生育への影響や病気の発生状況、肥大性等についての検討を行いました。

なお、ペレット堆肥の施用量については、県畜産試験場で開発した、「堆肥施用量計算ソフト」を使って算出しました。

普及活動の成果

昨年までの取り組みでは、病害の発生・生育収量は化成肥料と同程度でありましたが、ペレット堆肥を散布した区では、生子の着生が良く、散布もしやすいので有望な資材と考えられました。

また、今年度の結果でも生育中の病害の発生状況や地上部の生育については、化成肥料と大きな差は認められませんでした。

しかし、球茎の肥大については、夏場の低温と多雨等の影響により化成肥料に比べやや低かったことから、今後も継続して検討して行きたいと考えています。

一方、生子の収量はペレット堆肥が優り、化成肥料に比べ生子数が約1.4倍多い。

この結果は、前年までの試験結果でも同様な傾向であり、ペレット堆肥を使用することにより着生生子が多くなるということであれば、優良生子の確保から作柄の安定にもつながるものと考えています。



【ペレット堆肥】



【コンニャク植え付け風景】

技術のポイント

肥料費高騰の中、化成肥料の代替えとして、「堆肥施肥量計算ソフト」活用によるペレット堆肥の施肥量を算出し、施用することにより、安定した生産が維持できるとともに、地域資源の有効活用にも役立つものと考えています。しかし、畜種や堆肥の腐熟度により肥料成分が異なりますので、堆肥を施用する前に成分等を確認することが重要です。